

「 第1回 イングリッシュアドベンチャー 」

～赤城の森で英語体験～

1. 趣旨

2020年度の小学校新学習指導要領の本格実施に向け、国立の教育機関として、教育内容の改善と充実を目指し、本事業を実施する。昨今の保護者の英語教育に対する関心やニーズは高く、新学習指導要領の内容をプログラムに取り入れながら、英語をコミュニケーションツールとして位置づけ、小学生の体験活動を推進する一助とする。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成30年7月21日(土)～22日(日)

(2) 参加者

①参加対象 小学校6年生

②参加人数 23名 (応募総数30名)

群馬県前橋市16名、高崎市1名、渋川市1名、沼田市1名、
埼玉県深谷市3名、新潟県新発田市1名

3. 企画運営のポイント

- ①体験活動を中心に据え、積極的に英語を用いてコミュニケーションを行いたいと思う場면을意図的に設定し、楽しみながら英語に親しみ、英語を使ってコミュニケーションをしてみたいと思わせるプログラム構成にする。
- ②野外炊事や自然体験活動に係るプログラムについては、事前に当所職員が外部講師に対して進行方法や安全管理等の事前指導を行う。外部講師は各プログラムの中でパネル等を活用するなど、小学生が英語を使いやすい雰囲気づくりを行う。

4. 日程

	午前	午後	夜
7月 21日 (土)	開会式 仲間と英語ではじめまして！ ・アイスブレイク ・スカベンジャーハント	英語を使ってドラム缶ピザ作り ・デザートピザコンテスト	英語を使ってキャンプファイヤー ・英語の歌遊び (ロンドン橋落ちたなど) ・スモアづくり
7月 22日 (日)	英語で自分の町を紹介しよう ・スキット作成 ・リハーサル	英語を使って世界を広げよう ・ポスターセッション 振り返り 閉会式	

5. 主な活動内容



ドラム缶でデザートピザ作り



キャンプファイヤーで英語の歌遊び



ポスターセッション（自分の町を紹介）

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 2 2 名（9 6 %） やや満足 1 名（4 %） やや不満 0 名 不満 0 名

(2) 参加者の声

- ・英語は好きじゃなかったけど、英語を通じて楽しいこととか、外国の文化が知れて、好きになった。
- ・このキャンプで、英語がそんなに好きではなかったけど、興味をもつことができました。とても楽しかったです。
- ・1泊2日で短い時間だったけど、英語が好きになり、少し上達し、友達をいっぱい作れたので参加して良かったです。
- ・たくさん友達ができ、それに英語力も身についたので、参加して良かったなと思いました。今思うと、すごく短い時間だなと思いました！ありがとうございました。

(3) 成果

20名の定員に対して、30名の応募があり、抽選で23名を決定した。今回初めて企画した、学習指導要領に対応した自分の町を紹介するポスターセッションでは、英語をコミュニケーションツールとして用いながら、体験活動の楽しさや英語でコミュニケーションをすることの楽しさを実感でき、これからも英語を学ぼうとするきっかけとなったことが参加者アンケートから見受けられた。

また、参加の動機は「保護者に勧められた」が一番多かった事から、保護者の英語に関する意識が高いことが見受けられた。「保護者に勧められて」参加した子供達がプログラムを進めるなかで、人間関係が深まり、友達が増え、充実した体験活動ができ、満足度がとても高まったため、体験活動を推進するという役割が果たせたと考える。

(4) 課題

小学6年生では、全ての活動を英語の説明で通すということは難しく、個人個人の英語習得状況の差が大きい。どのレベルを基準として設定するかが難しいが、「この言葉は英語を使おう」と使うべき言葉や表現を例示したり強調したりすることで、英語でのコミュニケーションを促すことが可能となると考える。プログラムを通して、講師や班付きリーダーが積極的に英語を使い続けていくことや、日本語の問いに対して、英語で答えるなど、英語でのやりとりを増やすことが必要である。当然ながら、安全面などで指示を徹底しなければならない事は日本語で伝える必要がある。

ポスターセッションでは、何も見ずに、相手と受け答えすることは6年生には難しいと感じたが、4回異なる相手とセッションを繰り返すことで、発表に慣れていく姿が見られたため、英語で受け答えをする機会を増やしていくことが英語によるコミュニケーションを増やすための手立ての1つと考える。